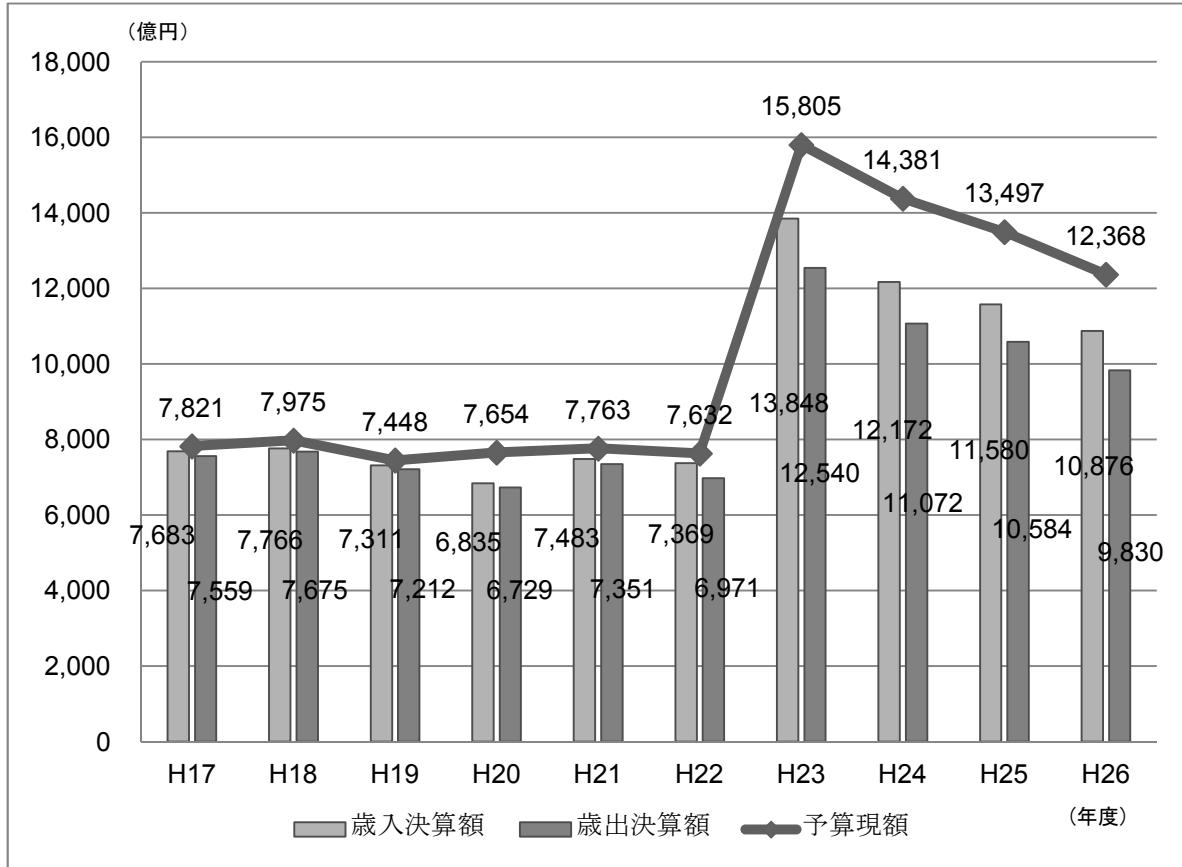


平成 26 年度一般会計決算見込額の概況

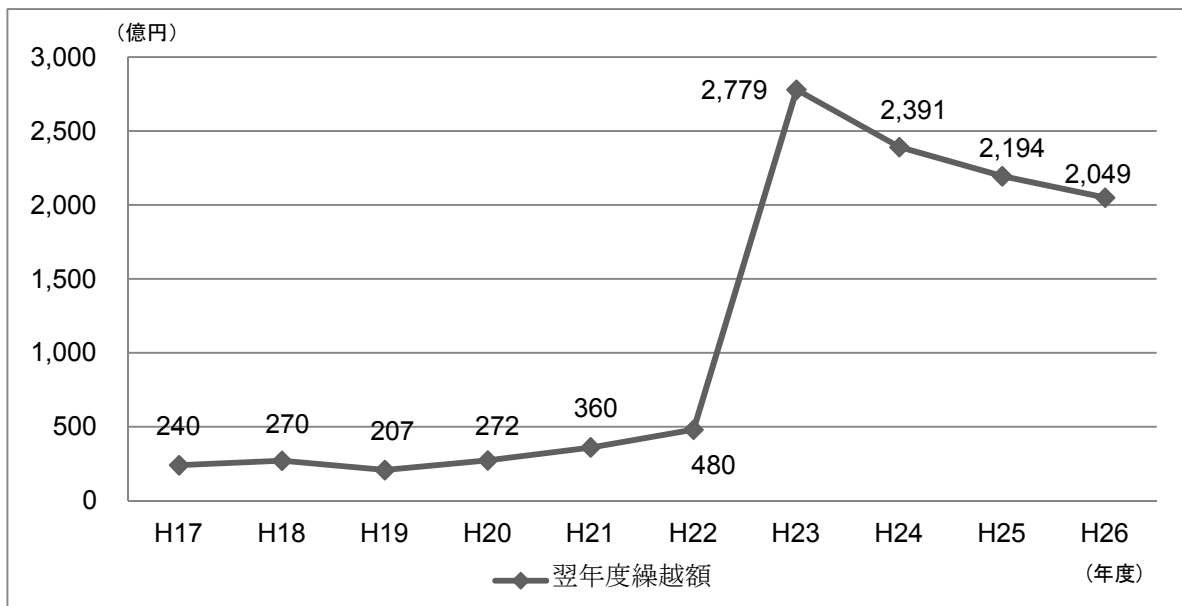
1 予算現額及び歳入・歳出決算額の推移

平成 26 年度の歳入・歳出決算額は災害廃棄物処理関連事業が終了したことなどから前年度を下回った。



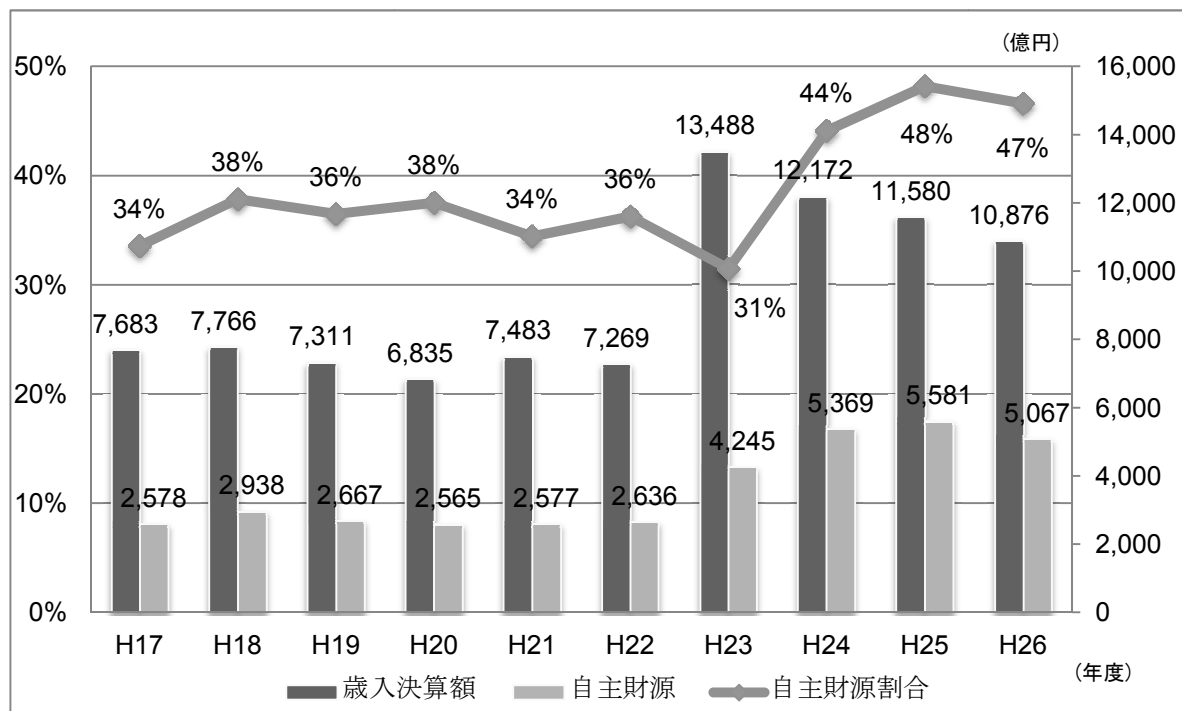
2 翌年度繰越額の推移

計画調整に不測の日数を要したことなどから、翌年度繰越額は平成 23 年度から 4 年連続で 2 千億円台となった。



3 自主財源割合の推移

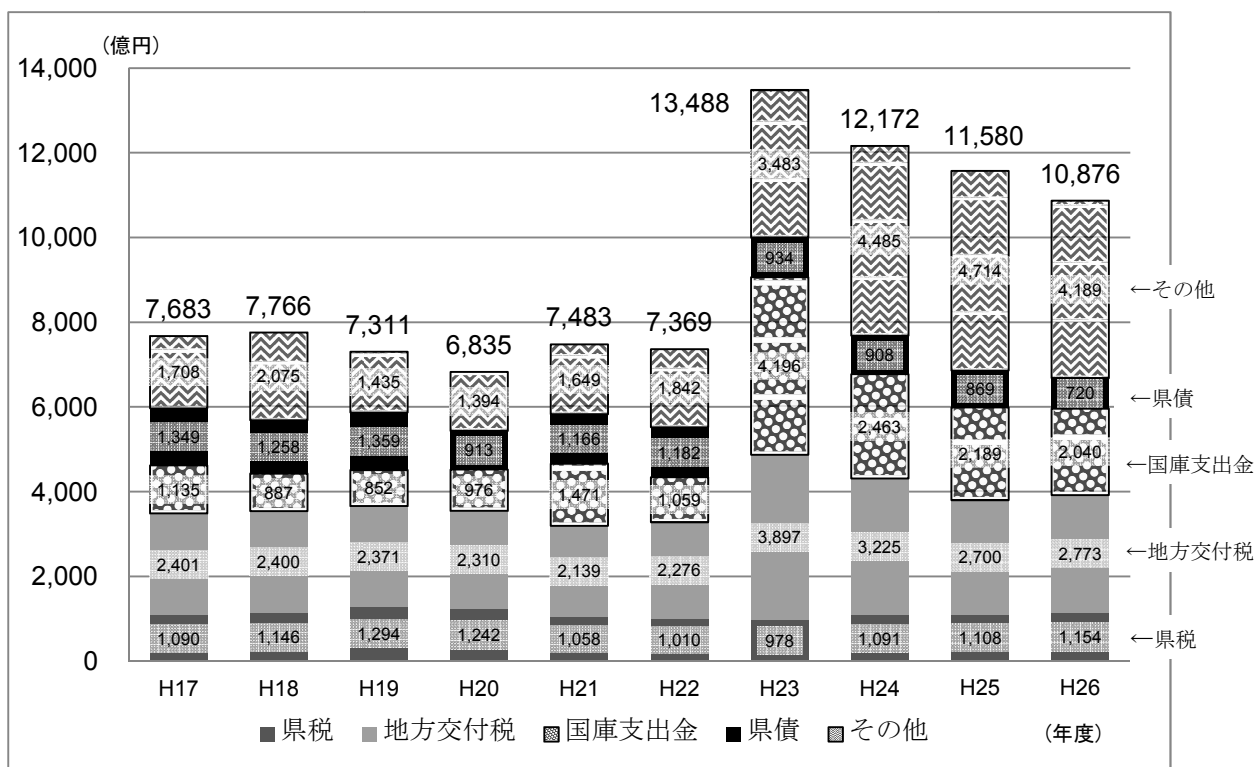
基金からの繰入金、県税収入などの増により、自主財源は3年連続で40%を超えた。



※歳入のうち自主財源：県税、地方消費税清算金、分担金及び負担金、使用料及び手数料、財産収入、寄附金、繰入金、繰越金、諸収入

4 歳入決算の状況

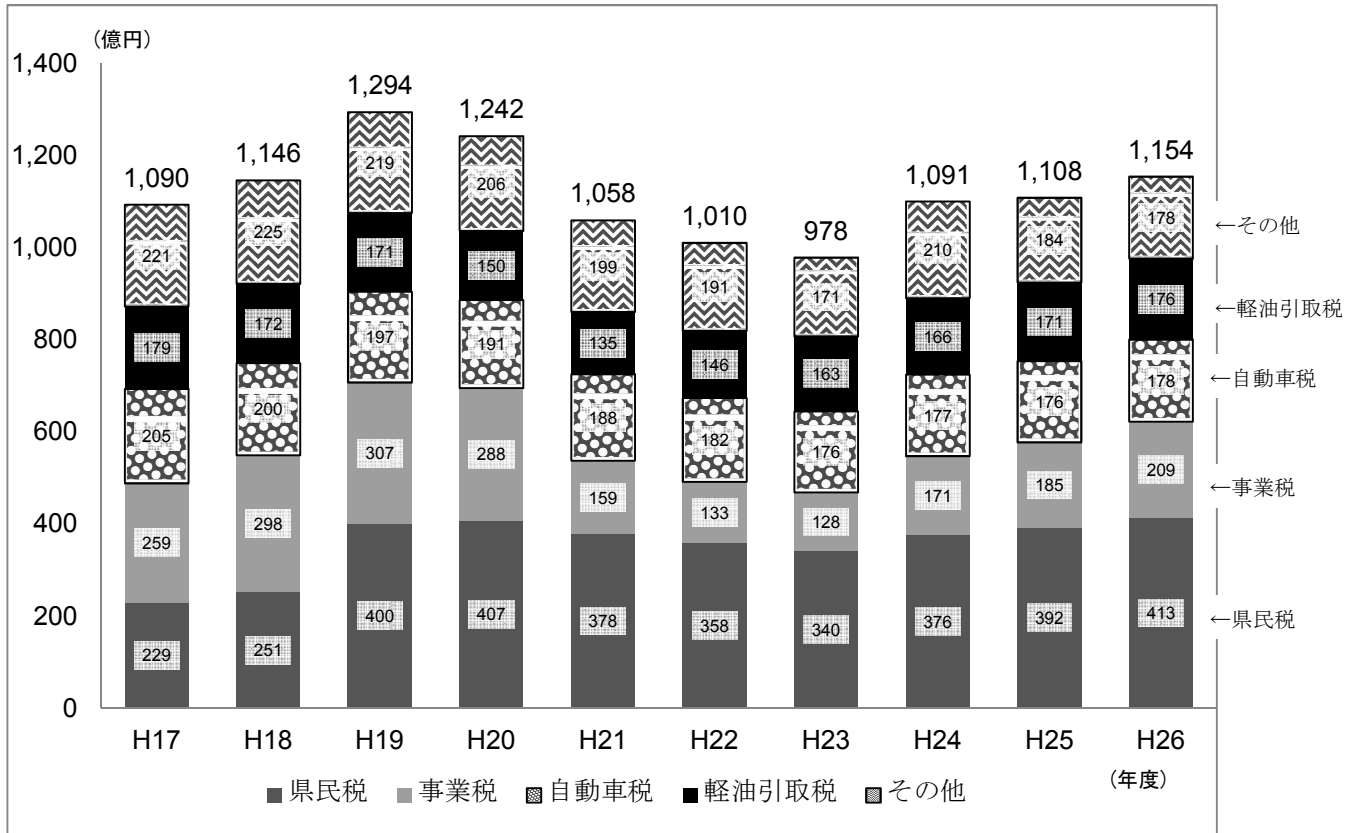
災害廃棄物処理関連事業終了に伴う諸収入の減、県債、国庫支出金の減により歳入決算額は減少したものの、地方交付税、地方消費税清算金、県税は増加した。



(1) 歳入のうち県税と県債発行額の状況

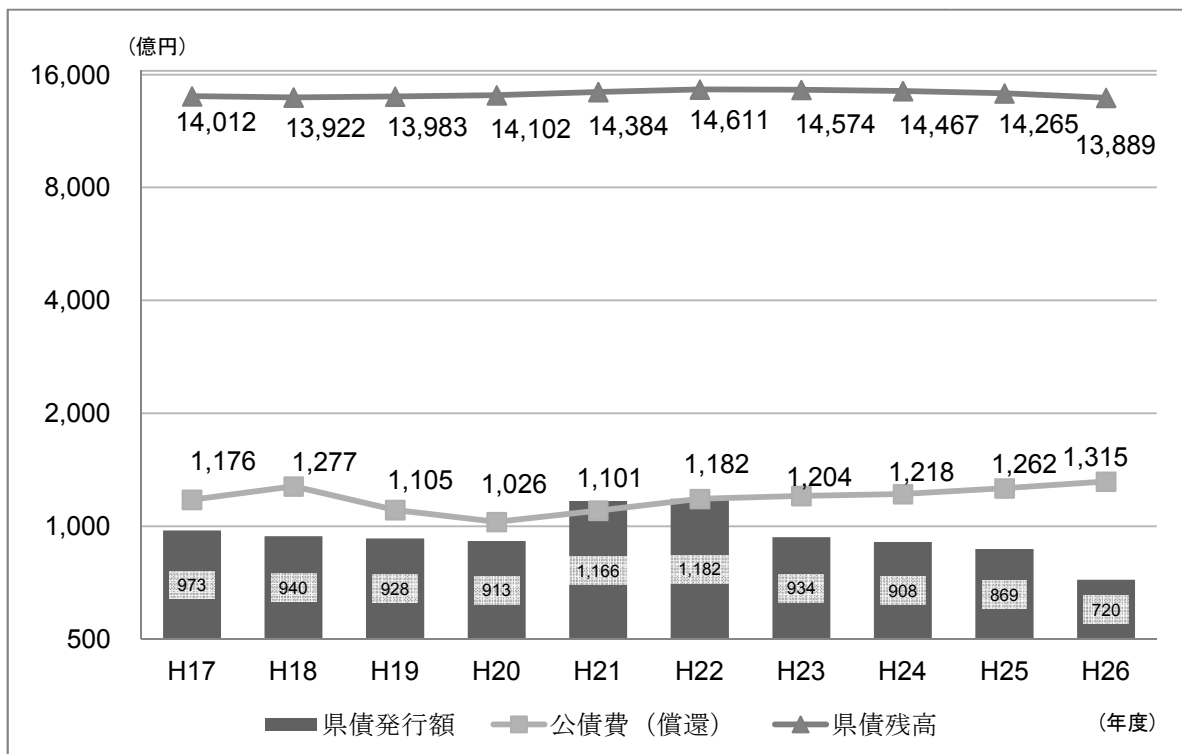
ア 県税

県民税、事業税などの増により、県税収入は3年連続で増加した。



イ 県債発行額

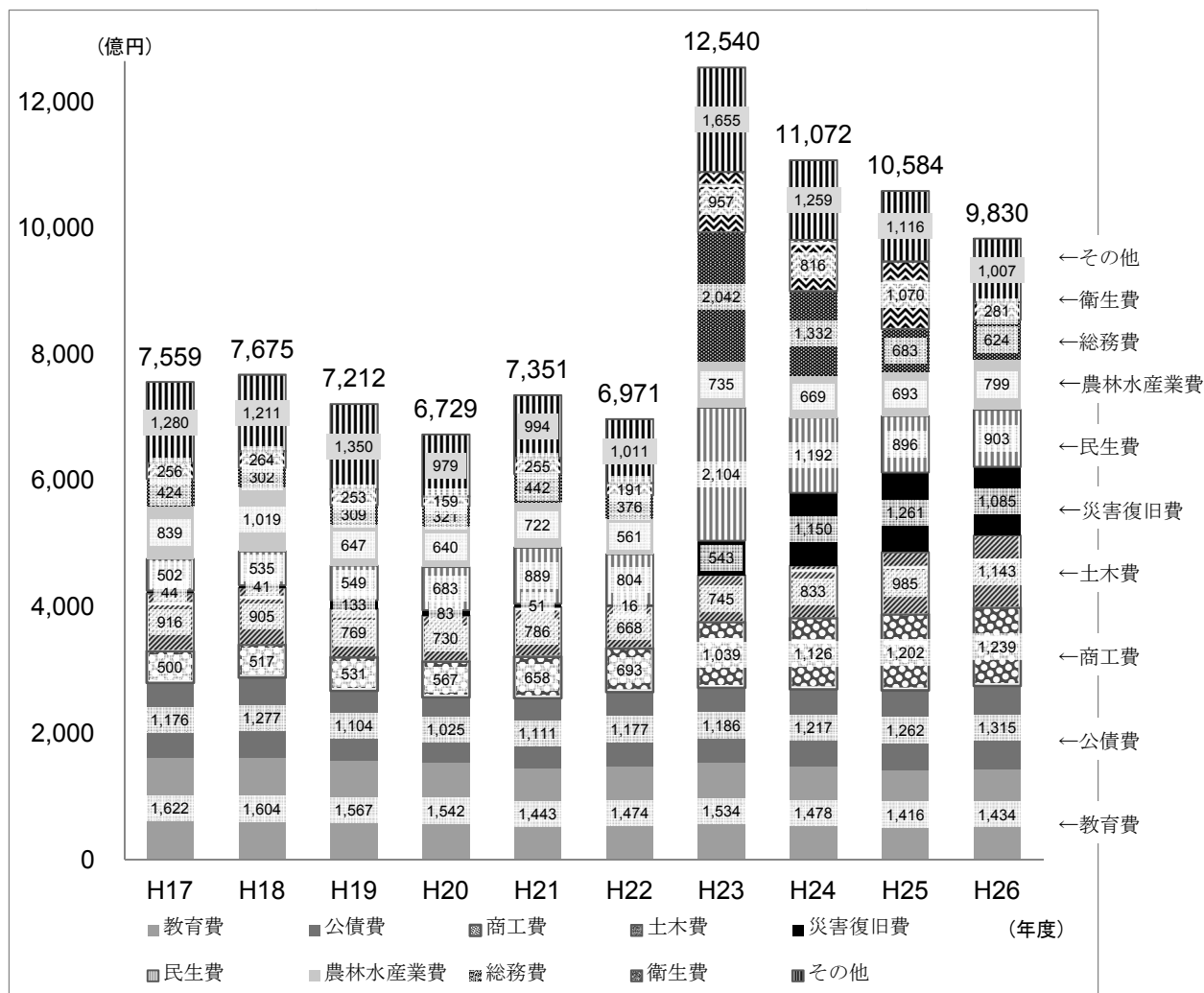
償還はピークとなるも、県債発行額は4年連続で減少した。



5 歳出決算の状況

(1) 目的別

災害廃棄物処理関連事業終了に伴う衛生費の減、災害復旧費の減などにより歳出決算額は減少したものの、土木費、農林水産業費は増加した。



(2) 性質別

災害廃棄物（がれき）の処理完了に伴う災害復旧事業費の減により、投資的経費が大きく減少した。

